

七十一

よみ

きゅうし いっしょう え
九死に一生を得る

なぞりがき

九死に一生を得る

いみ

ほとんど助^{たす}かりそうになり命^{いのち}が、助^{たす}かり生^い
き延^のびること。

ことわざ

よみ

きゅうそねこ か

窮鼠猫を噛む

なぞりがき

窮鼠猫を噛む

いみ

よわ もの
弱い者でも、
ぜったいぜつめい
絶体絶命になれば、
つよ もの
強い者を苦
しめることがある。

よみ

きよみず ぶたい と お
清水の舞台から飛び降りる

なぞりがき

清水の舞台から飛び降りる

いみ

おも き けつだん
思い切った決断をすること。

よみ

義ぎを見てせざるは勇無ゆうきなり

なぞりがき

義を見てせざるは勇無き
なり

いみ

人ひととしてなすべき正ただしいことを知しりながら、
それをしないのは勇ゆう気がないからである。

よみ

くち わざわい かど
口は禍の門

なぞりがき

口は禍の門

いみ

ふようい い ことば
不用意に言った言葉が、
さいなん まね
災難を招くことがあ
ることば つつし
るので、言葉は慎むべきである。

七十六

よみ

くんしあや ちかよ
君子危うきに近寄らず

なぞりがき

君子危うきに近寄らず

いみ

とく たか りっぱ ひと みずか げんどう つつし
徳の高い立派な人は、自らの言動を慎み、
きけん ばしよ はじ ちか
危険な場所には初めから近づこうとしないも
のである。

七十七

よみ

けいせつ こう っ
蛍雪の功を積む

なぞりがき

蛍雪の功を積む

いみ

くろう がくもん はげ
苦勞して學問に勵み、
せい か あ
成果を上げること。

よみ

こういんや ごと
光陰矢の如し

なぞりがき

光陰矢の如し

いみ

つきひ
月日は、
や
矢のようにあつという間に
ま
過ぎ去
さ
つ
ていく。

七十九

よみ

後悔先に立たず
こうかいさき た

なぞりがき

後悔先に立たず

いみ

一度終わってしまったことを後から悔やん
いちどお あと く
でも、もう取り返しがない。
と かえ

八十

よみ

孝行こうこうのじぶんしたい時分におや親はなし

なぞりがき

孝行のしたい時分に親は
なし

いみ

親孝行おやこうこうは、親おやが元氣げんきなうちにしておくものだ。

ことわざ